

三大学総長・学長復興シンポジウムを主催しました（2019/11/10）

テーマ：世界 BOSAI フォーラム、震災復興、大学の取り組み
 場所：仙台国際センター大ホール

2019年11月10日（日）14:00～15:30、「三大学総長・学長復興シンポジウム」が、世界防災フォーラムの一般公開セッションとして開催されました。このシンポジウムは、岩手大学・東北大学・福島大学の総長・学長および関係者が一同に集まって復興や将来について議論するもので、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）の今村文彦所長の発案で始まり、関係機関の協力を得て実施されたものです。当日の司会は当研究所広報室の中鉢奈津子特任助教がつとめました。

セッションでは、今村所長のご挨拶・趣旨説明に続き、岩手大学 岩淵明学長・東北大学 大野英男総長・福島大学 中井勝巳学長が、東日本大震災から現在までの取り組みをそれぞれ発表しました。震災以降の8年半で、それぞれが大学の特性を生かして地域性での復興・防災への道筋を開き、様々な活動を自主的に実施されていることがよくわかりました。また、この8年半で、各活動が地域ニーズなどに応じ、新しい組織や体制に変化・進化してきたことも紹介され、復旧・復興における大学の役割が大きかったことが示されました。

次に、村上清 岩手大学学長特別補佐をコーディネーターに迎え、「未来に向けた大学の存在と役割」をテーマに、岩淵学長・大野総長・中井学長がパネルディスカッションを行いました。ここでは、会場の学生との質疑応答もまじえながら、大学の今後の復興・地域支援への取り組みに関する課題と展望が議論されました。研究・教育、人材育成に加えて社会貢献の意義を確認しながら、ボランティア活動への継続的支援、国際社会への貢献、関係大学との連携などが話し合われました。三大学総長・学長が今後のさらなる連携へ意欲を表明して、パネルディスカッションは締めくくられました。

最後に、東北大学 原信義 理事・副学長がご挨拶を行い、特に地震活動活発化・地球規模気候変動など最近の災害の経験を次世代に繋ぐことの重要性、大学として次世代を牽引することの重要性を強調しました。

本セッションは、岩手大学・東北大学・福島大学の総長・学長が初めて一堂に会し、震災経験と知見、問題意識を共有する意義ある機会となりました。



シンポジウムの様子



ご挨拶する今村文彦 研究所長

文責：今村文彦（災害リスク研究部門）、中鉢奈津子（広報室）